

W02b

ASTRO-G/VSOP-2 計画の機器開発の現状

村田 泰宏、斉藤 宏文、平林 久、樋口 健、太刀川純孝、朝木 義晴、吉川 真、望月 奈々子、橋本 樹明、坂井 真一郎、竹内 央 (JAXA 宇宙研)、井上 允、坪井 昌人、梅本 智文、河野 裕介、武士俣 健、萩原 喜昭、浅田 圭一、氏原 秀樹、小林 秀行 (国立天文台)、亀野 誠二、西尾 正則 (鹿児島大)、須藤 広志 (岐阜大)、春日 隆 (法政大)、小川 英夫 (大阪府大)、藤沢 健太、土居 明宏 (山口大) 他、次期スペース VLBI ワーキンググループ

本年会、平林ほかの講演で示されたとおり、次期スペース VLBI 計画 VSOP-2 は、ASTRO-G として、2007 年度からのプロジェクト化に向けて、予算要求、予備設計などの準備作業を行っている。本講演では、春季年会から現在までの、ASTRO-G プロジェクトの開発の進捗について報告する。

衛星開発については、衛星開発を行う上での、システム、サブシステムの定義、メーカーも含めた分担の検討、および購入機器の選定を行っている。それらの作業と一緒に、昨年度提案した時点での衛星設計の見直しおよび詳細化を図っている。さらに、衛星の、設計、製作、試験工程のスケジュールなどの詳細見直しを行っている

全体の衛星システムとしては、構造的、熱的な成立性を基本として、各機器のサブシステムからの配置要求を満たすように機器の再配置をより詳細に行った。大型展開アンテナについては、鏡面の形状を決定し、詳細設計に入っている。また、鏡面調整機構の配置についても見直しを行った。それ以外の各機器についても、今年度末にはインターフェース条件を決めるべく設計の詳細化を進めており、衛星システムについてもそれらを反映したより現実性の高いものになっている。講演では、これらの進捗について報告する。